

# 看護師が臨床における認知症看護の質向上に取り組むプロセスに関する研究

看護学部

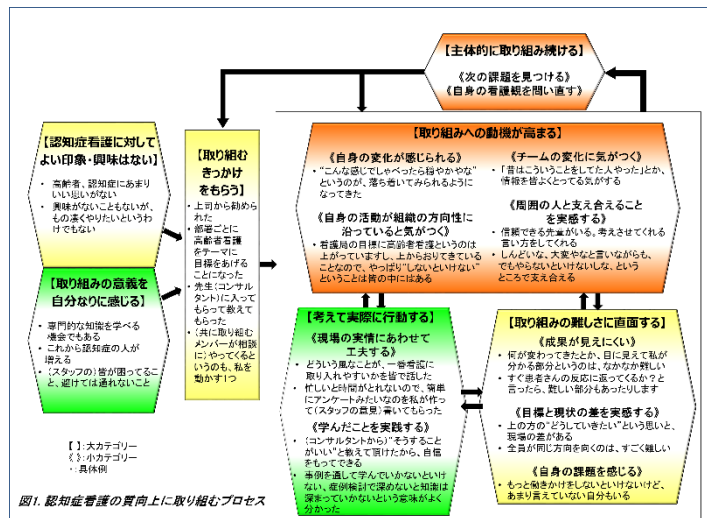
なかすじ よしこ  
助教 ○中筋 美子

## キーワード

認知症看護、看護実践、看護の質、人材育成

## 研究概要

**【研究目的】** 本研究の目的は、認知症看護の質向上に向けた研修に取り組む看護師へ聞き取り調査を行い、看護師が看護の質向上に取り組むプロセスを明らかにすることである。**【研究方法】** 研究期間：2015年11月～2016年2月。対象者：地域の総合病院に所属し、看護師経験5年以上かつ自施設の認知症看護の質向上をめざして活動している看護師6名。**データ収集・分析方法**：半構造化面接法によるインタビューを行い、活動に至る経緯に関するデータを収集。インタビュー録音から作成した逐語録を質的帰納的に分析した。**【倫理的配慮】** 研究協力者に対して、辞退に伴う不利益は生じないこと、個人情報保護を説明し、協力の同意を得た。なお本研究は所属機関の研究倫理委員会の承認を得て行った。**【結果】** 対象者は全員女性、看護師経験年数は10～20年未満3名、20年以上3名だった。分析の結果、7つの大カテゴリーと11の小カテゴリーが形成された(図1)。**【考察】** “取り組むきっかけをもらおう”という外発的動機であっても、実践に根差した知識の獲得、認知症者に対する姿勢の変化を実践を通して体感することが、認知症看護の質向上をめざす取り組みへの内発的動機となり得ることが分かった。



## アピールポイント

認知症有病者数が約439万人と推定されている我が国において、認知症高齢者への質の高い医療・介護サービス整備は喫緊の課題である。そのため、認知症看護に携わる看護師の実践力や看護の質向上をめざした実践教育・研究推進が求められている。本研究によって得られた知見は、認知症看護実践力向上を導く教育プログラムを作成する資料となり得ると考えている。そして、その教育プログラムは、医療機関、介護保険施設など認知症者が生活する様々な場で提供されるサービスの質向上に寄与し得るものと考えている。なお、本研究は、平成27年度公立大学法人兵庫県立大学特別研究助成を受けて実施し、日本老年看護学会第21回学術集会にて発表した。